



上板橋第四小学校 令和7年度

## 第1回コミュニティ・スクール委員会だより

令和7年6月4日  
上板橋第四小学校  
校長 山藤 知子  
CS委員長 平山 志保

### 第1回 会合の報告

上板橋第四小学校の令和7年度第1回コミュニティ・スクール委員会が、5月15日（木）第5校時授業参観に引き続き、午後2時10分から本校ランチルームで行われました。

#### 本年度の委員の皆様

##### 《地域委員》

伊藤 恵美	委員	(PTA会長)
蓮沼 俊之	委員	(上板橋一丁目町会顧問)
木下 奉章	委員	(上板橋二丁目前会長、青健顧問)
平山 志保	委員	(地域コーディネーター)
下竹 敬史	委員	(さくら保育園長)
椛山 和人	委員	(元PTA会長)
島村 恵子	委員	(主任児童委員)
徳重 弘樹	委員	(元PTA役員、教育関係企業)
石井 眞由子	委員	(上四小あいキッズ責任者)

##### 《行政委員》

山田 綾子	委員	(中央図書館長)
辰口 信子	委員	(上板橋保育園長)
増田 伸吾	委員	(常盤台地域センター所長)

#### 委嘱状交付・委員長選任

委員会の前に、5時間目の授業を参観しました。その後ランチルームにて、CS委員の皆様へ委嘱状を配布しました。

本年度の委員長は、推薦により、昨年度に引き続き平山志保委員が就任しました。

#### 学校経営方針説明

資料を基に、校長より次の説明がありました。

- ・学校経営方針
- ・令和7年度 新たな取組について

#### 学校・保護者PTA・コミュニティスクール委員会(iCS)・学校支援地域本部の仕組

iCS委員会では、学校運営での様々な課題、取組について協議する役割があり、学校支援地域本部は、実働部隊の役割を担っています。この二つが両輪となり学校を支え、一緒に学校を作っていく体制になっています。ぜひ、このようなiCSの場では、たくさんのご意見を頂戴したいと思います。

昨年度でも、図書の読み聞かせやミシンの学習の手伝いなど、様々な場面で保護者や地域の方に教育

活動のお手伝いをいただいています。学校支援地域本部は、そのお手伝い募集のチラシを作ったり、当日の差配をしてくださったりしています。

(地域コーディネーターより)

5月後半には自転車安全教室や体力テストのボランティアがあります。ボランティアの募集に当たっては町会をはじめ、地域と連携もしていきますので、今後ともよろしくお願ひします。

#### 熟議「学校の教育目標について」

(学校目標について)

**校長**：教育目標は、子どもをどう育てていきたいかという、学校の大きなめあてです。それは、教職員だけではなく、子どももいつでも意識できるものであってほしいと思っています。

今の教育目標は子どもにとって少し難しく、前任の和田校長からも、教育目標を子どもにとって身近なものに変えられるとよいとのご意見がありました。

そこで、今年1年間は皆さんからもご意見を伺い、来年度あたりから変えていければと考えています。

教育目標はこれまでも見直し度々図られ、開校60周年の時は、「想像力の育成、社会性の涵養、体力の充実」。80周年の時は「かしこい子、たくましい子、なかよくする子」でした。そして現在は「自立(みつける)、貢献(かかわる)、共生(つながる)」となっています。

子どもがイメージしやすいものが望ましいと思います。ぜひ、忌憚のないご意見をお願いします。

#### 【Aグループより】

「我慢、勇気、優しさ」との教育目標案が出されました。

また、現在の教育目標についても話し合いました。「みつける」で大切なのは認知能力です。自分で考える力や、自分の学習計画を立てたり、危ないところを自分で見付けたりするということが大事です。

「かかわる」では、地域のイベントなどに参加しな

がら、大人も子どもも互いに知り合っていくという  
ことを通して、地域での危険なども回避できると思  
います。「つながる」では、友達のよいところを見付  
ける、子どもの居場所づくり、地域とのつながりを  
大切にしていくなどの姿があるのではないかと、との  
話が出ました。

#### 【Bグループ】

自律・貢献・共生が、互いに絡み合っ  
て新しい目標に向かっていけばよいのではないかと考  
えました。新しい目標は端的なものがよいと思  
います。

そこで、「世界にはばたけ上四小」との目標を考  
えました。その目標に向かって、子どもたちが自立し、  
貢献し、共生していくことで、どんどん世界に羽ば  
たいていければと思います。

#### 【Cグループ】

「自立」「貢献」「共生」にはどのような思いが込  
められているのかを考えました。

この目標は小中一貫教育「M34（むさし）学び  
のエリア」にも設定されていることから、9年間か  
けて達成されるものと考えられます。「自立・貢献・  
共生」のそれぞれの言葉は、子どもにとって難しく  
聞こえることもあります。各学年に分かりやすくか  
み砕いて示していく必要があるだろうと思います。

#### 【Dグループ】

教育目標「自立・貢献・共生」を分かりやすく伝  
えようと、「みつける・かかわる・つながる」として  
いるのだろうとの解釈から、グループで話し合いを始  
めました。

「自立・貢献・共生」は難しく、「みつける・かか  
わる・つながる」は解釈の幅が大きいです。

例えば「みつける」は、学習だけではなく、友達  
の変化への気付きも「みつける」でしょうし、「かか  
わる」にもつながるでしょう。そしてそれらのこと  
は家庭での何気ない会話の中で得られる場合もあり  
ます。ご家庭のご協力もいただきながら、子どもた  
ちに「みつける・かかわる・つながる」とはどうい  
うことなのかを示していくことが重要なのではない  
かと思います。

#### 【教員より】

○学級目標を考えると、学校目標、学年目標と  
下ろししながら子どもたちに学級目標を考えさせ  
るようになっています。例えば「みつける」とは、  
自分の可能性を広げることです。自分のできるこ

とだけを伸ばしていくだけでなく、全てにチャレ  
ンジしていく、その中で自分の可能性を見付けて  
いく、そのような話をしています。

○学校目標から学年目標を立て、学年集会で説明を  
した上で学級目標を立てるというようにしていま  
す。学校目標の言葉は難しいですが、高学年にと  
っては、言葉に考える余白があるとありがたいと  
思います。この言葉を、子どもたちが先生と一緒に  
考えながら、中学年向け・低学年向けと分かり  
やすくかみ砕いていって、最後は、代表委員など  
児童自らが、この言葉の意味を考えられるよう  
になるよいと思うと、幅のある目標も素敵だと思  
うこともあります。

○学校目標から考えると、私の担当学年の学習では、  
地域との関わりが多いです。今、自分で課題を見  
付け、自分で解決するという「みつける」の側面  
に課題を感じ、育成しているところです。今受け  
もっている学年は男女隔てなく仲が良いのが特徴  
です。その面を生かしながら、「かかわる」という  
ところも育てていければと思います。



熟議では各グループで活発な意見交換が見られました。

#### 参加者からの感想

このような会合が開かれていることや、学校支援  
地域本部のことを初めて知りました。

現在は「校外班」がなくなってしまいました。学  
校と地域とのつながりを深めていくためにも、この  
ような活動をもっと増やしていきたいと思いました。

次回予定：7月16日(水)

10:45～

(1、2校時「かみよんフェスタ」)

文責：副校長 高橋

委員長 平山